

研修員に聞く

# お国自慢あれこれ



ジョセフ・アメザ・オメガさん

(ケニア共和国)

Mr. Joseph Amesa Omega

ケニア北西部ケリチョー地方を管轄する政府機関、  
獣医学調査試験場に勤務する上級獣医学調査官。  
JICA北海道国際センター(帯広)の「上級原虫病コース」コース  
(2002年10月29日～2003年9月7日)で研修中。

## 「ケニア人であることは誇り」

「ケニアはアフリカで最も安定した国ですし、とても美しいです」と、ケニアについて話してくれた。初代ケニヤツタ大統領の時代から政治、外交に力をつけてきた結果であろうか。世界各国の企業はアフリカ進出の際まずケニアに拠点を置くそうで、サファリなどを目的にする観光客も首都ナイロビをホームベースに周辺の各地へ赴く。ナイロビにはUNDPやUNCTADなど国連の機関があり、国際会議が開かれることも多い国際都市である。

早くから野生動物の保護がなされて現在は国立公園に指定されている動物保護区で自然の中での動物たちの姿を間近に見ることができる。

また旧宗主国英国の伝統が今も息づいていて、球技クリケットが盛んである。今年はクリケットのW杯の年で2月～3月、南アフリカ各地を舞台にゲームが展開されたが、ケニヤは準決勝まで進んだ。また、陸上競技に多くの優れたアスリートを生んでいるスポーツ国でもある。

## ケニヤ北西部、ケリチョー

首都圏人口が200万人のナイロビ市の北西にあるケリチョー市。オメガさんが勤務する獣医学調査試験場は国内を幾つかの地域に分けたうち、ケリチョー市を中心とした地域を担当している。海拔2000mの高原地帯で年間の平均気温は10℃～20℃で、主に農耕牧畜が行われている。また、紅茶の産地で世界的な紅茶ブランド・メーカーの茶葉の産地として有名だそうだ。

## 牧畜と感染症

東部の海岸地帯ほどではないが、ツェツェバエが媒介する原虫病であるトリパソーマ症などは牧畜業にとって大きな脅威である。多くの場合原虫病に感染すると、野生動物も家畜も(時には人間も)貧血、体重の減少、牛の場合は乳量の減少、流産を引き起こして、死亡するなど牧畜地帯の経済を破綻させることもあり大きな問題になっている。

オメガさんは、試験場の寄生虫課に所属して、研究計画や現場で疾病調査を行うチームの指揮、学生の教育、指導を行っている。

今後の展望として、①原虫病への対処法を農民に伝えること、②感染した家畜が出た時に調査、分析すること、③研究所などを開設し、データの分析や効果のある薬の開発研究ができることを期待している。



## 帯広に来たこと

国の真ん中を赤道が走る国ケニアだが、平均高度1700mくらいの高地が主で暮らしやすい温暖な気候である。アフリカで二番目に高いケニア山(5199m)ははじめ高山では雪や氷河も見られる。が、地上で「これだけの雪を見たのは初めてでした」とオメガさん。冬には、滞在する国際センターや然別湖の周囲でクロスカントリースキーも体験した。「スキーを履いて歩いていただけですが楽しかったです」。

「アドベンチャーと言いますか、新しいことをするのが好きなんです。ですから、ケニヤのJICA事務所で帯広での研修が決まったのを聞いた時は嬉しかったですよ」。帯広に来ての感想は、「とても幸せです。人々はフレンドリーですし、すべてが見事に秩序良く組み立てられています」と、大満足の日々で9月までの長期間の研修も問題なくすごせるようである。

